

第13回大気化学シンポジウムプログラム
1月8日(水) 10日(金)、豊川市民プラザ

2002.12.26現在

プログラム委員:北 和之(対流圏)、林田佐智子(成層圏)、松見 豊

1月8日(水)午前 大気汚染の気候・環境影響研究に関する検討会 (公開ですのでご自由に参加ください)

座長:中島映至

| | | | | |
|-------|-------|----|----------------|------------------------|
| 10:40 | 11:00 | 20 | 秋元 肇(地球フロンティア) | ABCプロジェクトを取り巻く現状について |
| 11:00 | 11:15 | 15 | 中島映至(東大気候システム) | ABCプロジェクト-放射からのアプローチ |
| 11:15 | 11:30 | 15 | 近藤 豊(東大先端研) | ABCプロジェクト-大気化学からのアプローチ |
| 11:30 | 12:30 | 60 | 出席者全員 | 検討会 |

12:30 13:30 60 昼休み

大気化学シンポジウム開始

1月8日(水)午後 対流圏特別セッション「東アジア域の大気観測キャンペーン:ハイライトと今後の計画」

座長:北 和之(茨城大理)

| | | | | |
|-------|-------|----|----------------|----------------------------|
| 13:30 | 13:35 | 5 | 北 和之(茨城大理) | Preface |
| 13:35 | 14:00 | 25 | 河村公隆(北大低温研) | ACE-ASIA |
| 14:00 | 14:30 | 30 | 近藤 豊(東大先端研) | TRACE-PおよびPEACE |
| 14:30 | 14:55 | 25 | 中島映至(東大気候システム) | アジア域の大気粒子環境の変調に関する研究(APEX) |

14:55 15:10 15 休憩

座長:河村公隆(北大低温研)

| | | | | |
|-------|-------|----|-----------------|--------------------------------------|
| 15:10 | 15:35 | 25 | 笠原三紀夫(京大院エネルギー) | 微粒子の環境影響 |
| 15:35 | 16:00 | 25 | 植松光夫(東大海洋研) | 日本における海洋・大気間の物質相互作用研究計画(SOLAS)の現状と将来 |
| 16:00 | 16:25 | 25 | 秋元 肇(地球フロンティア) | UNEPプロジェクト:Asian Brown Cloud (ABC) |

16:25 16:40 15 休憩

対流圏一般講演

座長: 滝川雅之 (地球フロンティア)

| | | | | |
|-------|-------|----|---|--|
| 16:40 | 17:00 | 20 | 太田幸雄・加藤 亮 (北大工学部)、 鶴田治雄 (東京農工大)、米村正一郎・須藤重人 (農環研)、前田高尚 (産総研)、今須良一 (東大気候システム)、白砂裕一郎・平野耕一郎 (横浜市環境科学研)、世良耕一郎 (岩手医科大)、二ツ川章二 ((財)日本アイソトープ協会滝沢研) | 奄美大島におけるガスとエアロゾルの測定及び流跡線解析による発生源同定 (APEX-E2特別観測) |
| 17:00 | 17:20 | 20 | 小池真 (東大理)、近藤豊 (東大・先端研)、北和之 (茨城大理)、竹川暢之 (東大先端研)、升井幸男 (東大理)、その他TRACE-Pサイエンスチーム | 春季におけるアジア大陸からの人為起源窒素酸化物と硫酸化物の輸送効率: TRACE-P航空機観測 |
| 17:20 | 17:40 | 20 | 竹川 暢之、近藤 豊 (東大先端研)、小池 真 (東大理)、北 和之 (茨城大理)、D. R. Blake (UCI)、渡井 智則 (環境研)、川上 修司 (NASDA)、小川 利紘 (NASDA)、他PEACEサイエンスチーム | PEACE-Aで観測された冬季日本上空におけるオゾン及びその前駆物質の分布 |
| 17:40 | 18:00 | 20 | 北田敏廣、倉田学児、我谷薫、白川夢、稲垣亮太 (豊橋技科大・エコロジー工学系)、畠山史郎 (国立環境研) | 燃焼起源EC,OCの全球分布の動的展開の推定: 2001年3月、TRACE-P期間 |

18:00 19:00 60

大気化学研究会運営委員会 (運営委員のみ)

1月9日 (木) 午前

対流圏一般講演

座長: 永尾一平 (名大院環境学)

| | | | | |
|-------|-------|----|---|---|
| 9:00 | 9:20 | 20 | 奥田 知明、加藤潤、森淳哉、天目真樹、田中茂 (慶應大・理工)、K.He, Y. Ma, F. Yang, X.Yu, Y. Lei (清華大) | 中国北京市におけるエアロゾル中微量化学成分濃度の測定と発生源の推定 |
| 9:20 | 9:40 | 20 | 松本潔 (東大海洋研 / 科技団)、宇山悠紀子、早野輝朗、植松光夫 (東大海洋研) | 黄砂現象に伴う人為起源エアロゾルの輸送の特徴と化学的性状 - 利尻島における春季の観測から - |
| 9:40 | 10:00 | 20 | 成田祥、松本潔 (科技団、東大海洋研)、宇山悠紀子、植松光夫 (東大海洋研) | 海洋環境 (VMAP観測2001、2002)における大気エアロゾル中水溶性成分の挙動 |
| 10:00 | 10:20 | 20 | 松永壮 (北大低温研・北大院地環研)、持田陸宏 (北大低温研)、冢田曜世、関宰、伊澤祐輔 (北大低温研・北大院地環研)、平賀育代 (北大低温研)、河村公隆 (北大低温研) | 森林大気中での生物起源有機化合物の生成とエアロゾル相への移行およびその過程 |

10:20 10:35 15

休憩

座長: 加藤俊吾 (科技団・都立大工)

| | | | | |
|-------|-------|----|--|--|
| 10:35 | 10:55 | 20 | 畠山史郎、高見昭憲(国立環境研)、王偉、湯大鋼 (中国環境科学研究院) | 中国渤海湾上空における大気汚染物質の航空機観測 |
| 10:55 | 11:15 | 20 | 松本 淳・定永靖宗・加藤俊吾(科技団・都立大工)野 間口知基・澤田寛己・竹中規訓・坂東 博(阪府大工)小 杉如央・桜井健一・梶井克純(都立大工) | 都市大気におけるNO-NO2交換反応の検討 |
| 11:15 | 11:35 | 20 | 久世暁彦(NASDA/EORC)、川島高弘(NTSpace)、佐 野琢己、鈴木睦、丹下義夫、柴崎和夫、小川利紘 (EORC) | 衛星搭載紫外分光計OPUSの大気物理量導出アルゴリズムと 地上測定結果 |

大気化学研究の今後に関するセッション
座長:小池 真(東大理)

| | | | | |
|-------|-------|----|-------------|-----------------------------|
| 11:35 | 11:55 | 20 | 余田成男(京大理) | WCRP/SPARCの最近の動向 |
| 11:55 | 12:05 | 10 | 近藤 豊(東大先端研) | コメント:IGAC、IGAC-IIの最近の動向(仮題) |
| 12:05 | 12:15 | 10 | 討論 | |

12:15 13:30 75 昼休み

1月9日(木)午後

成層圏一般講演

座長:稲谷順司(NASDA)

| | | | | |
|-------|-------|----|--|---|
| 13:30 | 13:50 | 20 | 笠井康子(通信総研)、高橋千賀子(富士通FIP)、 Joachim Urban (University Bordeaux) | ミリ波サブミリ波サウンダによるオゾン同位体・水蒸気同位体の 観測 |
| 13:50 | 14:10 | 20 | 水野亮、福井康雄、大西利和、水野範和(名大理)、 小川英夫、米倉覚則(府立大)、中根英昭、長浜智生 (国立環境研)、森平淳志(富士通VLSI) | ミリ波スペクトル多周波同時測定装置の開発と水蒸気同位体分 子の長期モニタ観測計画 |
| 14:10 | 14:30 | 20 | 村田 功、福西 浩(東北大院理)、中根 英昭、中島 英彰(国立環境研) | 地上赤外分光観測より導出したオゾン高度分布の精度 |
| 14:30 | 14:50 | 20 | 関 浩二、笠井 康子、村山 泰啓、水谷 耕平、板部 敏 和(通総研)、神代 剛(富士通FIP)、Frank J. Murcay (デンバー大学) | SFIT2を用いたリトリバルにより導出したオゾン高度プロファイ ルの精度 |
| 14:50 | 15:10 | 20 | 杉田考史、横田達也、中島英彰、入江仁士、神沢 博、小林博和、笹野泰弘(環境研) | ILAS最新バージョン6.0のデータ質 |

15:10 16:00 50 **大気化学研究会会員総会** 同じ会場です。非会員の方も出席ください。

16:00 18:30 150 **ポスターセッション(全ポスター掲示)奇数番号説明**

18:30 20:30 120

懇親会

1月10日(金)午前

成層圏特別講演

座長: 林田佐智子(奈良女大理)

| | | | | |
|-------|-------|----|------------------|----------------------------------|
| 9:00 | 9:30 | 30 | 松見 豊(名大STE研) | 化学反応過程の研究の新たなる展開 |
| 9:30 | 10:15 | 45 | 余田成男(京大理) | 力学的研究における新たなる展開+2002年9月のオゾンホール分裂 |
| 10:15 | 10:30 | 15 | 笠井康子(通信総研) | SMILES |
| 10:30 | 10:45 | 15 | 中島英彰、杉田考史(国立環境研) | ILAS-II/SOFIS |
| 10:45 | 11:00 | 15 | 長谷部文雄(北大院環境) | SOWER |

11:00 11:20 20 休憩

成層圏一般講演

座長: 柴田清孝(気象研、環境応用)

| | | | | |
|-------|-------|----|-----------------------------|---|
| 11:20 | 11:40 | 20 | 河瀬祥子・香川晶子・林田佐智子(奈良女子大・院) | 化学データ同化の新しい手法: Chemical Species Mapping on Trajectories ~ 信頼性と有効性 ~ |
| 11:40 | 12:00 | 20 | 柴田清孝(気象研・環境応用)、吉村裕正(気象研・気候) | 質量保存性の良いセミラグランジュ輸送スキームについて: 気象研究所 化学輸送モデルでのその導入効果 |

12:00 13:00 60 昼休み

1月10日(金)午後

成層圏一般講演

座長: 杉田考史(国立環境研)

| | | | | |
|-------|-------|----|--|---|
| 13:00 | 13:20 | 20 | 秋吉英治、杉田考史、神沢博(国立環境研)、河本望(宇宙開発事業団) | ナッジングCTMとILASデータを用いた夏の下部成層圏のオゾン変動に関する研究 - N2Oの変動との比較 |
| 13:20 | 13:40 | 20 | L. Zhou, H. Akiyoshi (NIES) and K. Kawahira (Fukui Prefectural University) | Analysis of year-to-year ozone variation over the subtropical western Pacific region using ozone observation data and CCSR/NIES nudging CTM |
| 13:40 | 14:00 | 20 | 入江仁士(国立環境研)、近藤豊(東大先端研)、中島英彰(国立環境研) | 1997年初冬における南極成層圏の脱室 |

| | | | | |
|-------|-------|----|--|---------------------|
| 14:00 | 14:20 | 20 | 山川貴子、林政彦、藤原玄夫、白石浩一、日浦仁、伊藤友和、首藤正毅、石黒丈士(福岡大理)、永井智広、松村貴嗣(気象研)、安井元昭(通総研)、岩坂泰信、松永捷司(名大院環境)、名倉義信(シグマテック)、Slamet Saraspriya、Sri Kaloka、Tinbul Manik(LAPAN, Indonesia) | 赤道域および極域成層圏エアロソルの変動 |
|-------|-------|----|--|---------------------|

14:20 17:00 160 **ポスターセッション(全ポスター掲示)偶数番号説明**

ポスターセッションプログラム

すべてのポスターを1月9日(木)10日(金)の両日のセッションで掲示

1月9日は奇数番号、1月10日は偶数番号の説明

| | | |
|---|---|--|
| 1 | 森本京、林政彦、山下克也、田口幸洋、陳彬、山本享 | 2002年、春季の敦煌及び福岡の鉱物エアロソルの比較 - 顕微ラマン分光法による鉱物種同定にもとづいて - |
| 2 | 永尾一平、田中浩(名大院環境学) | 西部北太平洋からのDMS放出量の見積り-他のソースの硫黄化合物放出量との比較- |
| 3 | 奥田 知明、岩瀬珠実、上田英子、田中茂(慶應大・理工)、土器屋由紀子(江戸川大)、伏見克彦(気象大)、細江守一(防衛大) | ネットワーク観測による首都圏の降水中化学成分に対する三宅島火山噴火の影響 |
| 4 | 金谷 有剛、豊田 賢二郎、秋元 肇(地球フロンティア)、中野幸夫、江波進一、中道真司、Simone Aloisio、橋本訓、川崎昌博(京大院工) | 新規に測定されたDMS + IO 反応速度定数を組み込んだボックスモデルによるDMS酸化過程の検討 |
| 5 | 服部裕史、宇井剛史、宇山悠紀子、成田 祥、植松光夫(東大海洋研) | VMAP海洋大気観測:2002年IOC航海における洋上エアロソルの微量金属の挙動とその解析 |
| 6 | 渡辺幸一、武部裕作、曾出信宏(富山県立大)、五十嵐康人、高橋 宙、澤 庸介(気象研)、鈴木一成(東京農工大)、土器屋由紀子(江戸川大) | 富士山における霧水・降水の化学成分およびオゾン、エアロソル粒子の粒径分布の測定 - 2002年9月の集中観測の結果- |
| 7 | 渡辺征春(NASDA/EORC)、奥村真一郎(NASDA/EORC)、吉田重臣(NASDA/EORC)、川上修司(NASDA/EORC)、鈴木睦(NASDA/EORC)、小川利紘(NASDA/EORC) | 紫外分光計[Air-borne OPUS]を搭載した航空機観測: SO2導出手法の検討 |

| | | |
|----|---|---|
| 8 | 加藤俊吾(科技団・都立大工)、宇井剛史(東大海洋研)、植松光夫(東大海洋研)、梶井克純(都立大工) | 2002年IOC研究航海による北太平洋上の大気成分測定 |
| 9 | 加藤俊吾、梶井克純(科技団・都立大工) | PTR-MSによる東京郊外での大気測定 |
| 10 | 滝川雅之、秋元肇(地球フロンティア)、須藤健悟、高橋正明(東大CCSR)、竹川暢之(東大先端研) | PEACE-A 観測期間中におけるヨーロッパ起源汚染気体の定量的評価 |
| 11 | 田口彰一(産総研) | 対流圏OHラジカル濃度の経年変動 |
| 12 | 鶴田治雄(東京農工大(非常勤))、米村正一郎・須藤重人(農環研)、R. Zareen and B. Ghauri (SUPARCO, Pakistan) | パキスタンのカラチ上空における対流圏オゾンの測定 |
| 13 | ポチャナート パクボン、秋元 肇(地球フロンティア) | タイにおける大気微量成分と東南アジアモンスーンとの関係 |
| 14 | 家田 曜世、松永 壮(北大低温研・北大院地環研)、河村公隆、持田陸宏(北大低温研)、関宰、伊澤祐輔(北大低温研・北大院地環研)、平賀育代(北大低温研) | 2002年夏の雨龍演習林におけるVOCs濃度の変動について |
| 15 | 遠藤真紀、築山光一(東京理科大)、神代剛(富士通FIP)、関浩二、笠井康子、村山泰啓(通総研) | ポーカークラットFTIRによるCOの観測とSFIT2を用いた解析 - 1999年から2002年における対流圏COの季節変動 - |
| 16 | 大島 長(東大理)、小池 真(東大理)、近藤 豊(東大先端研)、北 和之(茨城大理)、竹川 暢之(東大先端研)、中村 尚(東大理)、その他PEACEサイエンスチーム) | 春季西太平洋域で観測された自由対流圏中での人為起源物質の増大:PEACE-B航空機観測と気象解析 |
| 17 | 川上 修司、小川 利紘(宇宙開発事業団 地球観測利用研究センター) | 2001-2002年のインドネシア・ワトゥコセツにおけるオゾン観測 |
| 18 | 倉田学児、北田敏廣(豊橋技科大) | TRACE-P観測データのバックトラジェクトリー解析と化学輸送モデルによる計算との比較 |
| 19 | 山口潤子・角皆潤・ 中川書子・小松大祐・蒲生俊敬(北大院理)・秋山賢一(自動車研) | 炭素安定同位体比を用いた大気中ベンゼンの起源と挙動に関する研究 |
| 20 | 中村憲司、近藤豊(東大先端研)、小池真(東大院理)、北和之(茨城大理)、竹川暢之、池田響(東大先端研)、他TRACE-Pサイエンスチーム | TRACE-P航空機観測における二酸化窒素測定 |
| 21 | 片平菊野(茨城大理)、高見昭憲(国立環境研)、菅田誠治(国立環境研)、北和之(茨城大理)、畠山史郎(国立環境研) | 森林衰退に関連する山岳域の高濃度オゾンと気象条件 |

| | | |
|----|--|---|
| 22 | 升井幸男, 小池真(東大院理), 近藤豊(東大先端研), 松見豊(名大STE研), N.B.Jones(Wollongong Univ), P.I.Palmer, D.J.Jacob(Harvard Univ), 中根英昭(国立環境研), 村田功(東北大院理), 梶井克純, 加藤俊吾(都立大院工), 瀬良正幸(名大STE研) | FTIRによって観測された対流圏一酸化炭素の季節変化 - 母子里, 陸別, つくばにおける観測と3次元モデルとの比較 - |
| 23 | 宮脇淳子, 中村真希子, 鈴木勝久(横浜国立大学) | FTIRを用いた対流圏大気微量成分C ₂ H ₆ , CO, HCNの変動観測 |
| 24 | 森野 悠 ¹ , 近藤 豊 ¹ , 小池 真 ² , 北 和之 ³ , 竹川 暢之 ¹ , 宮崎 雄三 ¹ , 他TRACE-Pサイエンスチーム (1:東大先端研, 2:東大院理, 3:茨城大理) | 東南アジア域におけるバイオマス燃焼のオゾンとその前駆物質への影響評価 |
| 25 | 伊澤祐輔(北大低温研・北大院地環研), 河村公隆(北大低温研), 白岩孝行(北大低温研) | カムチャツカ半島・ウシュコフスキーアイスコア中の微量有機成分: 分析法の検討と予備的結果 |
| 26 | 石島健太郎(東北大院理), 石澤みさ(地球フロンティア), 中澤高清, 青木周司(東北大院理) | 太平洋上のN ₂ O濃度変動と収支について |
| 27 | 町田敏暢(環境研), 渡井智則(GEF), 下山宏(環境研), 山本昌則(GEF), 井上元(環境研), O. Krasnov(IAO) | タワーと航空機を利用した大気境界層とその上部での二酸化炭素濃度の高頻度観測 |
| 28 | 渡井智則((財)地球・人間環境フォーラム), 町田敏暢(国立環境研), 北 和之(茨城大院理), 近藤豊(東大先端研), 川上修司, 小川利紘(NASDA/EORC) | 西部北太平洋対流圏における冬季および春季の二酸化炭素濃度空間分布 |
| 29 | 高橋 けんし, 松見 豊(名大STE研), Timothy J. Wallington, Michael D. Hurley(Ford Research Lab) | 新規代替フロン化合物CF ₃ OCHF ₂ CF ₃ の地球温暖化係数 |
| 30 | 高橋 けんし, 中山 智喜, 松見 豊, Susan Solomon(NOAA/Aeronomy Laboratory.), 下條 竜夫(分子研UVSOR), 繁政 英治(分子研UVSOR), Timothy J. Wallington(Ford Research Laboratory) | SF ₅ CF ₃ の大気寿命と地球温暖化へのインパクト |
| 31 | 岸川佳史, 阿久津好明(東大院), 佐藤圭, 酒巻史郎, 畠山史郎, 今村隆史(環境研), 長谷郁枝, 中川和道(神戸大院) | 複合炭化水素 NO _x 光酸化系におけるオゾン・エアロゾル生成 |
| 32 | 竹内 良輔, 金田 将吾, 谷矢 みさき, 田中 茂(慶應大・理工) | ミニチュア拡散スクラバーとLED比色計とを組み合わせた大気汚染ガスの自動連続測定装置の開発 |
| 33 | 杉山正和, 亀田浩史, 幸田清一郎(東大工), 森田明弘(京大理) | 水分子の水表面へのmass accommodation coefficient |
| 34 | 江波進一, 中道真司, 中野幸夫, Simone Aloisio, 橋本訓, 川崎昌博(京大工・分子工学) | Cavity Ring Down Spectroscopic Study of the Reactions of Halogen Atoms and Halogen Monoxide Radicals with Dimethylsulfide |

| | | |
|----|---|---|
| 35 | 遠藤 優、瀬川 えい子、田中 茂(慶應大・理工) | TiO ₂ 光触媒を用いた拡散スクラバーによるTVOCの計測技術の開発 |
| 36 | 金田 将吾、竹内 良輔、谷矢 みさき、田中 茂(慶應大・理工)、紺野 和夫、有本 雄美、松延 邦明((株)ガステック) | ミニチュア拡散スクラバーとLED比色計とを組み合わせた室内空気汚染ガスの簡易測定法の開発 |
| 37 | 北和之(茨城大理)、近藤豊、森野悠、池田響、竹川暢之、廣川淳(東大先端研)、T. Thompson, R. Gao, and D. Fahey (NOAA) | 化学イオン化質量分析法による大気硝酸測定装置の開発 * |
| 38 | 定永靖宗(科技団・都立大院工)、松本淳(科技団・都立大院工)、桜井健一(都立大工)、加藤俊吾(科技団・都立大院工)、野間口知基、竹中規訓、坂東博(阪府大院工)、梶井克純(都立大院工) | PERCA-LIFを用いた対流圏RO ₂ ラジカル測定装置のカスタマイズ及び大阪における都市大気観測 |
| 39 | 佐藤 優、瀬戸口 修、山田耕一(産総研) | 空中分散粗大粒子のクリスチャンセン帯域の特性 |
| 40 | 重森博之、鈴木崇文、高橋けんし、松見豊(名大院理・名大STE研) | レーザー誘起蛍光法による高感度SO ₂ 検出装置の開発 |
| 41 | 瀬戸口修、佐藤優(産業技術総合研究所) | アルコキシラジカルと酸素分子の反応:活性化エネルギーの理論化学的考察 |
| 42 | 辻和秀、渋谷一彦(東工大大院理工)、Matt Gane、Mario J. Molina(MIT EAPS) | 乱流流通法によるHO ₂ +HO ₂ 反応の研究 |
| 43 | 角皆 潤・小松大祐・中川書子・蒲生俊敬(北大院理) | 直接導入+連続フロー型質量分析法による一酸化炭素の炭素・酸素安定同位体比定量法開発 |
| 44 | 中江崇 1、辻潔 1,3、吉田尚弘 1,2,3、山本和成 3、上原喜代治3,4、菊川知之 3,5 (1東工大総合理工、2東工大フロンティア・セ、3科学技術振興事業団、4慶應理工、5アンリツ(株)) | レーザー分光法を用いたN ₂ Oアイソトポマー比の計測 |
| 45 | 西田哲、高橋けんし、松見豊(名大STE研)、M. D. Hurley and T. J. Wallington (Ford Motor Company)、M. Chiappero and G. A. Arguello(Universidad Nacional de Cordoba) | CF ₃ O ₂ ラジカルとNOとの大気反応過程 |
| 46 | 松本 淳(科技団・都立大工)小杉如央・梶井克純(都立大工) | レーザー誘起蛍光法による大気中NO ₃ 測定装置の開発 |
| 47 | 宮澤 譲、田中 茂(慶應大・理工)、紺野 和夫、有本 雄美、松延 邦明((株)ガステック) | 拡散スクラバー法による低濃度標準ガス調製法の開発 |
| 48 | 持田陸宏(北大低温研)、松永壮(北大地球環境)、河村公隆(北大低温研) | NO滴定法を用いた大気有機成分捕集時における酸化剤除去:気相反応モデルによる検討 |
| 49 | 藪下彰啓、橋川裕一、池田昌司、川崎昌博(京大院工) | 193nmにおける氷の光分解 |

| | | |
|----|--|--|
| 50 | 渡辺 猛、吉川 正信((株)東レリサーチセンター)、 松見 豊(名大理・名大STE研)、中島英彰、横田 達也 (国立環境研究所) | N ₂ Oを用いた低温多重反射セルの性能評価 |
| 51 | 鈴木崇之、中山智喜、高橋けんし、松見豊(名大院 理・名大STE研) | 307～314nmにおけるオゾン光解離:O(1D)量子収率の高精度な 絶対値測定 |
| 52 | 鈴木崇文、重森博之、高橋けんし、松見豊(名大院 理・名大STE研) 佐藤圭、今村隆史(国立環境研)、近 藤 豊(東大先端研) | レーザーイオン化質量分析法を用いたオゾン-オレフィン反応で 生成する有機エアロゾルの分析 |
| 53 | 奥村真一郎、渡辺征春、吉田重臣、川上修司、佐野 琢己、鈴木睦、小川利紘(NASDA/EORC) | 航空機搭載紫外リモートセンサ「Airborne-OPUS」～開発・改良 と初期成果について～ |
| 54 | 川島高弘、谷井純、宮村典秀、森重隆(NTSpace)、久 世暁彦、佐野琢己、油井由香利、丹下義夫、鈴木睦、 柴崎和夫、小川利紘(NASDA) | 大気観測紫外分光計(OPUS)の設計および光学性能評価結 果 |
| 55 | 眞木貴史、海老田綾貴(気象庁)、田中泰宙、折戸光太 郎、千葉長(気象研)、 佐々木徹(気象庁) | オンラインダスト輸送モデル(MASINGAR)を用いた2002年の黄 砂予測実験と検証 |
| 56 | 菊地信弘(NASDA)、中島映至(東大気候セ) | 近赤外放射観測による雲物理量の導出 |
| 57 | 増子治信、真鍋武嗣(CRL)、塩谷雅人(京都大学)、 稲谷順司、鈴木睦、佐藤亮太(NASDA)、ほかSMILES ミッションチーム | JEM-SMILESの進捗報告 |
| 58 | 落合啓(通信総研)、高橋千賀子(富士通FIP)、 SMILESミッションチーム(通信総研、宇宙開発事業団) | JEM/SMILES 観測における成層圏温度とオゾン濃度の水平分 解能と誤差の検討 |
| 59 | 齊川真介(東理大)、築山光一(東理大)、斎藤龍(東 工大院)、高橋千賀子(富士通FIP)、笠井康子(通総 研) | サブミリ波領域におけるH ₂ O-O ₂ van der Waals錯体の観測シ ミュレーション |
| 60 | 齊藤龍(東工大)、笠井康子(CRL)、金森英人(東工 大大学院) | H ₂ O-O ₂ van der Waals錯体のフーリエ変換型マイクロ波分 光と大気中における存在量の見積もり |
| 61 | 瀬田益道、真鍋武嗣(CRL)、稲谷順司、尾関博之、 菊池健一、佐藤亮太、西堀俊幸、三浦健史(NASDA)、 藤井泰範(日本通信機)、SMILESミッションチーム | SMILES用640GHz SISヘテロダイン受信機の進捗状況 |
| 62 | 高橋千賀子(FIP)、笠井康子、落合啓、真鍋 武嗣 (CRL)、SMILESミッションチーム (CRL,NASDA/TKSC,NASDA/EORC) | ミリ波・サブミリ波観測シミュレータの開発 |
| 63 | 森野勇、山田耕一(産総研) | 塩化水素のサブミリ波吸収プロファイルの圧力効果測定 |

*

| | | |
|----|---|--|
| 64 | 渡辺夏紀(日本女子大理)、小尾欣一(日本女子大理)、笠井康子(通総研)、岡朋治、山本智(東京大学大学院) | 富士山頂サブミリ波望遠鏡による中間圏COの観測と日変化 |
| 65 | 山田真澄、小林真由美、羽原秀太*、天埜堯義(茨城大理)、*(NASDA) | Critical Determination of the Pressure Broadening Parameters and their Temperature Dependence of BrO and HO ₂ |
| 66 | 伊藤泰章、大島道生、田中洋成、松崎章好(三重大工) | ILAS及びUKMOデータによるオゾン全量導出とTOMSデータとの比較 |
| 67 | 大島道生、伊藤泰章、田中洋成、松崎章好(三重大工) | ILASデータを用いた極域成層圏におけるオゾン・水蒸気相互作用 |
| 68 | 深堀正志、青木忠生(気象研)、渡辺猛(東レリサーチセンター) | ILAS-IIのチャンネル2領域におけるN ₂ O及びCO ₂ の低温スペクトル測定 |
| 69 | 中島英彰、入江仁士、杉田考史、横田達也、笹野泰弘(国立環境研究所) | ILAS Version 6.0によるClONO ₂ 及びN ₂ O ₅ の観測 |
| 70 | 神代剛、松本哲也、谷口弘智(富士通FIP)、関浩二、笠井康子、村山泰啓(通総研)、Frank J. Murcray(デンバー大学) | SFIT2を用いたポーカーフラットFTIR観測データの準リアルタイム自動リトリバルシステムの開発 |
| 71 | 中村真希子、宮脇淳子、鈴木勝久(横浜国立大学) | FTIRを用いた成層圏大気微量成分O ₃ ,HCl,HNO ₃ ,HFの変動観測 |
| 72 | 大朝由美子、菊地信弘、近藤賀代子、市沢俊介、川上修司、小川利紘(NASDA/EORC) | ADEOS/IMGを用いた雲及び極域成層圏雲の研究 |
| 73 | 中根英昭、Chan Bong Park、杉本伸夫、松井一郎、笹野泰弘、藤沼康実(国立環境研)、池内和泉、黒川純一、古橋規尊(富士通FIP) | 環境研オゾンレーザーレーダーデータの再解析によるオゾン、エアロゾル、気温鉛直分布 |
| 74 | 野口克行、今村剛、小山孝一郎(宇宙研)、鈴木勝久(横浜国大)、村田功(東北大)、渡辺隆(筑波技術短大) | 成層圏におけるオゾン擾乱の観測的研究 |
| 75 | 柴崎和夫(國學院大)、巻田和男(拓殖大)、N. J. Schuch(INPE) | ブラジルでのUV-B観測 |
| 76 | 谷口のり(京大工)、林田佐智子(奈良女大)、高橋けんじ、松見豊(名大STE研) | オゾン紫外光分解によるO(1D)生成量子収率に注目した成層圏オゾンの定常濃度に関する計算機実験 |
| 77 | 宮崎和幸(茨城大院理工)、岩崎俊樹(東北大院理)、千葉長、柴田清孝、関山剛、折戸光太郎(気象研) | MRI/JMA98 GCMと結合したオンライン化学輸送モデルによる成層圏オゾン再現実験 |
| 78 | 柴田清孝、関山剛、折戸光太郎、田中泰宙、千葉長、出牛真(気象研) | 気象研究所化学輸送モデルにおける化学モジュールの変更と結果 |

| | | |
|----|---|---|
| 79 | ○関山剛、柴田清孝、折戸光太郎、田中泰宙、千葉長 (気象研)、佐々木徹(気象庁) | 成層圏オゾンのシミュレーションにおける大気場客観解析値によるデータ同化の影響 |
| 80 | 庭野将徳(京大理) | UARS/HALOE 微量成分・エアロゾルデータから見た熱帯対流圏界面域の変動 |
| 81 | 江口菜穂(北大院地球環境)、塩谷 雅人(京大RASC) | 上部対流圏における水蒸気と絹雲の季節内変動について |